

1 サロスの邂逅 おわりの始まり・始まりのおわり

去る1月15日日没時に、西日本で部分日食を観察することができました。この日食は、中央アフリカで始まりインドを経て東南アジアに至る金環日食の東の端で見られたものです。今回は、上海のリベンジもあって少し気合を入れて、欠けながら夕日が海に没するところを撮りたかったので、午後休をとり、志摩市片田まで遠征して臨みました。そうして撮影できたのが下の写真です。この写真を見てベテランの天文ファンなら、1992年1月5日の早朝に見られた部分日食を思い出されることでしょう。こちらの日食は、フィリピン沖で始まりアメリカ西海岸で終わる金環日食の西の端で見られたものです。2つの写真をならべてみ



左：1月15日の日食

下：1992年の日食



ると日没時・日出時の違いはあれそっくりです。

日食は、太陽と月の軌道が絶妙に重なり合ったところで観察できる現象です。地球は太陽の周りをまわり、月は地球の周りを回っていますが、新月を223回繰り返したところで、太陽・地球・月の位置関係がもとに戻り、同じ日食が見られることとなります。その期間は18年と10日8時間に相当し、サロス周期と呼ばれて、紀元前千八百年ごろの古代バビロニア人は既にそのことを知っていて、日食や月食の予報に利用していました。

さて、この2つの日食の日時を引き算すると、18年と10日10時間になり、ほぼサロス周期と一致します。サロス周期と食い違う2時間の差は太陽の影が地球の直径分を走るのにかかった時間です。というわけで、2つの日食は太陽と月の軌道が織り成す兄弟ともいふべき日食であることがわかりました。そして、8時間(+2時間)の差が、日本において今回は日の入り、1992年には日の出の時に同じ形の日食を観察する偶然を作りだしました。

ちなみに、同じ系列の次の日食は2028年1月26日(UT)に起こりますが、そのときは残念ながら日本で観察することはできません。

メカが大好き CUBE がやってきた

ベランダ観望用の小型の架台が欲しいなあと思いつつ、かねてから iOptron 社の CUBE に目をつけていました。残念ながら、日本では販売されていなくて、これまで手を拱いていましたが、昨年末の円高を狙いボーナス頼みで思い切ってアメリカの望遠鏡ショップ(www.optcorp.com)から CUBE-Pro を購入(輸入)しました。定価は480ドルで、結局、送料・関税込みで約5万円。こんな価格で自動導入経緯台が手に入るのですから、たいしたものです。早速に8cm 屈折を同架して(ピクセンのアリガタが使える)、試験運転をしました。GPS を内蔵しているので初期設定も簡単。コマンドが英語なので少し迷いますが、ボタンひとつで次々と目標の星を導入していくのは爽快です。パソコンとの接続も簡単で、汎用インターフェイスの ASCOM を経由してフリーの星図ソフ

トと連動させることができました。ちなみに架台本体の重さは僅かに1.8Kgで、単三電池8本でも動きます。これは日食遠征にも最適かもしれません。



検索でうんちく ALではじまる星

CUBE では、固有名がある星については星名リストから選択して導入を行うことができます。コマンドーには、191 の星がリストアップされていますが、ふと眺めていて、そのうち、39 もの星がALで始まることに気づきました。アルタイル、アルビレオ、アルデバランなど沢山ありますね。きっと何か意味があるだろうと検索エンジンで調べてみたところ、ALは、アラビア語の定冠詞(英語のThe)であることがわかりました。結局、アラビア語が語源の多くの星はALで始まる訳です。

ALで始まるといえば、アルカイダとかアルジ

ャジーラとか、報道でお馴染みの言葉もたくさんあります。因みに、アルカイダ(Al-Qaeda)とは、英語でTheBase=「基地」という意味になるそうです。また、TheFoundationとも訳されます。余談ですが、アイザック・アシモフの「銀河帝国興亡史」(The Foundation Series)は、その逆にアラビア語では「アルカイダ」と訳されているそうで、ピン・ラティンはここから組織の名前を採ったのではないかという話も…しかし、これはずいぶんと眉唾ですね。ショッカーを名乗って活動するようなものだ・・・

Books&CDs TheCaldwellObjects / Stephen James O'Meara

メシエ天体というと、小望遠鏡で楽しめる星雲星団の代名詞ですが、一方で、広く親しまれているにもかかわらずメシエ天体に含まれていない星雲星団もたくさんあります。たとえば、ヒアデス星団、二重星団、網状星雲などです。そういった星雲星団をイギリスのPatrickMoore氏が拾い集め、メシエと同じ109の天体をCaldwellカタログとして提唱しました。この本は、そのCaldwellカタログの星雲星団について、特徴や見え方を丁寧に解説したものです。メシエ天体以外の天体の解説書は少ないので、その次のステップとして観望のガイドに好適です。(でもハードカバーなので

気軽に持ち運びするのは不可)ちなみに、著者は、同シリーズとしてHiddenTreasuresという続編とも言える星雲星団の解説書を出版していますが、こちらは書名のとおりさすがに難物の天体が多くて、おつきあいが難しくなってしまうと思います。ということで以下にCaldwellのリストを掲載します。



番号	名称	番号	名称	番号	名称	番号	名称	番号	名称
C1	NGC188	C23	NGC891	C45	NGC5248	C67	NGC1097	C89	NGC6087
C2	NGC40	C24	PerseusA	C46	Hubble's	C68	NGC6729	C90	NGC2867
C3	NGC4236	C25	NGC2419	C47	NGC6934	C69	NGC6302	C91	NGC3532
C4	NGC7023	C26	NGC4244	C48	NGC2775	C70	NGC300	C92	ηカリーナ
C5	IIc342	C27	NGC6888	C49	ばら星雲	C71	NGC2477	C93	NGC6752
C6	Cat'sEye	C28	NGC752	C50	ばら(星団部)	C72	NGC55	C94	JwelBox
C7	NGC2403	C29	NGC5005	C51	IC1613	C73	NGC1851	C95	NGC6025
C8	NGC559	C30	NGC7331	C52	NGC4697	C74	NGC3132	C96	NGC2516
C9	Sh2-155	C31	まがたま	C53	NGC3115	C75	NGC6124	C97	NGC3766
C10	NGC663	C32	NGC4631	C54	NGC2506	C76	NGC6231	C98	NGC4609
C11	Bubble	C33	網状星雲(東)	C55	土星状星雲	C77	電波銀河	C99	γカリーナ
C12	NGC6946	C34	網状星雲(西)	C56	バックマン	C78	NGC6541	C100	こうもり星雲
C13	NGC457	C35	NGC4889	C57	NGC6822	C79	NGC3201	C101	NGC6744
C14	二重星団	C36	NGC4559	C58	NGC2360	C80	ω星団	C102	IC2602
C15	NGC6826	C37	NGC6885	C59	木星状星雲	C81	NGC6352	C103	タウカリーナ
C16	NGC7243	C38	NGC4565	C60	アッパ銀河(大)	C82	NGC6193	C104	NGC362
C17	NGC147	C39	エスキモー	C61	アッパ銀河(小)	C83	NGC4945	C105	NGC4833
C18	NGC185	C40	NGC3626	C62	NGC247	C84	NGC5286	C106	NGC104
C19	Cocoon	C41	ヒアデス	C63	らせん状星雲	C85	IC2391	C107	NGC6101
C20	北アメリカ	C42	NGC7006	C64	NGC2362	C86	NGC6397	C108	NGC4372
C21	NGC4449	C43	NGC7814	C65	NGC253	C87	NGC1261	C109	NGC3195
C22	NGC7662	C44	NGC7479	C66	NGC5694	C88	NGC5823		

編集雑記

ホームページの更新はページ作成が結構面倒で、かといってブログを書き綴るマメさもないということで、Web掲載を前提にマガジンを作成することにしました。T氏のAstroAIDSやY氏のPADには及びませんが、「気楽に読めるけど実はオタ

ク」をコンセプトに作成していきます。願わくば、3号雑誌にならないことを・・・なお、松阪市天文台指導員でよく天文台にみえる方+αには印刷物でお渡しします。手元に届かない方もWebでご覧ください。Kz_Wada/和田一人